

子どもたちの明るい声が街に再び響くために。力を合わせ闘います。

渡利地区町会連合会長 穴澤 健夫さん

7月の地区除染では、「自分たちがやらなければ」という切実な思いを、地区の皆さんが共有していると強く感じました。元通りの街に一日も早く戻せるよう、行政と役割分担をしながら、皆で力を合わせ除染に取り組んでいきたいと思います。



▶7月に行った渡利地区の除染。住民と市の協働により、側溝の土砂上げや通学路の洗浄、住宅の除染実験などを実施した



福島再生

ふるさとと福島市を取り戻せ！

市民の皆さんとともに

3月11日に発生した東日本大震災は、福島市に深い爪跡を残した。しかし、福島市は負けない。ふるさと福島市を守るため、困難に挑み続ける人々の軌跡を追った。

マグニチュード9.0 未曾有の震災発生

早春の穏やかな午後だった。3月11日午後2時46分。福島市を、これまで経験したことのない、強く長い揺れが襲った。あさひ台団地で避難指示が出るなど、各地に甚大な被害が発生。余震も続く中、市民は不安と混乱の中に置かれた。 県北地方一円に水を送る福島地方水道用水供給企業団の巨大な送水管が破断し、市内全域が断水。各所に設けた臨時給水所には、どこも長蛇の列ができた。大規模な被害の復旧や応急給水作業に、地元水道業者と



▲のり面が崩れ、甚大な被害を受けたあさひ台団地（伏拝）

市職員が連携して不眠不休で対応に当たった。助け合いの輪も広がった。井戸がある家では、人々に井戸を快く提供

した。全国各地から、さまざまな物資など温かい支援も寄せられた。 ライフラインや物流は徐々に復旧。少しずつ混乱は収束していった。

放射能災害を乗り越え ふるさとへの復興へ

震災と共に、福島市を襲った「放射能」というもう一つの災害。原子

力発電所で起きた水素爆発のニュースに、人々は凍りついた。 未曾有の災害に、定まらない国の対応。人々に高まる不安と不信。市は、市民の安全と安心を守るため、放射能という未知の敵に対して、独自に闘うことを余儀なくされた。 子どもたちを守るため、全ての小・中学校、幼稚園・保育所などで実施した校・園庭の表土除去。住民の皆さんと協働で7月に行った渡利地区の除染。その後も、大波地区の除染や、除染方法確立のための実験など、「市内全域の除染」という目標に向け、取り組みを一つずつ積み重ねてきた。

かつてない危機を乗り越え、皆が安心して、心豊かに暮らせるまへ。ふるさと福島市復興へ、市民と行政が一丸となった、福島を愛する者たちの挑戦は、これからも続く。



(上) 子どもたちの安心な暮らし確保のため、全ての小・中学校、幼稚園・保育所などで、校・園庭の表土を除去 (下) 渡利の公園で行った除染実験。放射能対策アドバイザーの指導の下、処理に必要な汚染土を減らす方法を検証した